新年度冒頭のご挨拶

厩橋病院長　天谷太郎

桜の季節もいつしか過ぎ、葉桜の季節となりましたが、会員の皆様方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

旧年度中は新棟建築のために、大勢の皆様方に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで新棟は（それなりに問題はあるものの）無事完成し、新年早々、病棟部分に関してはその使用を開始する運びとなりました。一月十五日の入院患者さんたちの病棟引っ越しという一大事業は、降雪と極端な寒さに見舞われ、困難な状況の中で行われましたが、職員の皆様方の献身的な働きのおかげで、大過なく成し遂げることが出来ました。心よりお礼を申しあげます。外構工事こそまだ完了しておりませんが、三月二七日からは新棟の全面使用が始まり、これによって病院の諸機能はかつてないレベルで集約化されることになりました。さらに四月十日からはイントラネットを用いた、コンピュータ端末によるオーダリングシステムもスタートしています。またグループホームも建物は既に完成し、五月の開設に向けて着々と準備が進んでいる状況です。

どれもこれも当院にとっては初体験のものばかりですが、これらの新しいツールを活用することで、病院機能の大幅な改善が期待できるものと考えております。とは言え、新しい建物もグループホームもオーダリングシステムも、詰まるところただの道具に過ぎませんので、当然のことながらこれだけで当院が提供する医療サービスの質の向上が保証されるものではありません。新しい道具には、新しい道具なりの使い方が必要となります。

使い方次第では、これまでより医療・療養サービスの質が低下することもあり得るということを私たちは肝に銘じておく必要があると思います。道具に不慣れな最初の内は、当然のことながら様々なミスが起こりやすい状況ですので、大きなミスを犯さぬよう慎重に注意を払いつつ、とにかくこの道具に慣れ、これを使いこなせるようになることが優先されます。そして、その〝慣らし運転〟の間も、新しい道具の長所のみならず短所・問題点にもしっかりと目を向け、改良できるところは改良し、問題意識を共有しつつ、これを適切に使いこなす技能を、みんなで知恵を出し合いながら向上させてゆくことが求められます。

そして、一旦道具に慣れたなら、そのあとが言わば本当の勝負です。患者さん一人一人が、この病院に来てよかったと心から思えるような、患者さん本位の安全で質の高い医療および療養サービスを提供することが、群馬県の精神医療の先駆けとしてスタートし、九十年近い歴史を持つ厩橋病院の取り得る唯一の道だと考えています。長年渇望し、ようやく手に入れることのできたこれらの新しいツールを最大限活用し、この目的に向かって前進してゆく努力を怠らないことが、私たちに課された使命であると思いますので、皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になりますが、本年度が、厩橋病院にとって飛躍の年となりますことと、積善会で働く私たち全員にとって、そしてその積善会を支えてくださっている皆様方全員にとって有意義で、実り豊かな、良き一年となりますことを祈念して、簡単ですが、私の年度初めのご挨拶とさせていただきます。